

## 令和6年度第1学期始業式式辞（Zoom実施） 令和6年（2024年）4月8日

中学・高校の2年生、3年生の皆さん、おはようございます。

3月末の冷え込みの影響で、サクラの開花が遅れたため、校門前のソメイヨシノがちょうど見頃を迎えています。以前にもお話しましたが、桜の根元には「第1回卒業記念」と記された石碑があります。記録によると、昭和41年（1966年）3月に本校第1期生が卒業式の前日に、「学校取り付け道路に12本植樹」とあります。前後して、中庭の日本庭園と運動場、野球部バックネットが完成しました。ソメイヨシノの寿命は一般に60年程度と言われており、交差点の信号機横にあるものも含め、現在ではもう3本しか残っていませんが、校門の桜を見るとき、本校の創立時に思いをはせてくれたらと思います。なお、新高3生は、記念すべき60期生、新中3生は、県中20期生です。

さて、令和6年度第1学期の始業に際して2つのことをお話します。

1つ目は、自分で目標を設定することの大切さです。みなさんは新しい学年を迎え、今年度の目標を設定しましたか。現在の自分を見つめ、将来どうなりたいかを考えてみてください。自分で考えて決めるからこそ、努力が継続できるのであって、人から言われたことをやっているだけでは長続きしません。そして、これまでできなかったことにも、勇気をもってチャレンジをしてください。

江戸時代後期の儒学者で、西郷隆盛、坂本龍馬、吉田松陰ら幕末の志士に影響を与えたとされる、佐藤一斎（さとういっさい）は、

「学は立志より要なるはなし。而して立志もまた之を強いるに非ず。ただ本心の好むところに従うのみ。」と述べています。学問をするには、目的をもって志を立てることが大切であり、これは外から強制できるものではない。あくまでも自身の心の中に芽生えた決意から始まるものである、という意味です。月日は瞬く間に過ぎていきます。悔いのない学校生活とするため、いいスタートを切ってください。

2つ目は、本校の校訓の1つである「協和」についてです。「協和」とは、協力の協に、平和の和と書きます。「互いの人格を尊重し、協力する心を大切に作る人間を育てる」ということです。完璧な人間など、この世には存在しません。自分の欠点を含めて尊重してくれる人が真の友人ではないでしょうか。

「友情は、喜びを2倍にし、悲しみを半分にする。」これは、ベートーヴェンの第九の歌詞や太宰治の「走れメロス」の題材となった詩の作者として知られる18世紀末のドイツの詩人シラーの言葉です。

残念ながら、世の中には、友人といいながら、あなたを利用することしか考えていない人や、弱い人や弱みのある人を言葉で傷つけることで、自分の欲求不満を解消する人たちがいます。みなさんは決してそんな人にならないでください。「協和」、お互いを思いやり尊重する気持ちを大事にしてください。

本日から新生が入校します。お互いを尊重し思いやる本校の創立以来のこのよき伝統を守り、後輩となる新生に伝えることが、新2年生、3年生の役目です。

みんなで励ましあってそれぞれの目標に向かってがんばりましょう。以上、1学期の始業の言葉とします。